



再建した商業施設



憩い・交流の場「夢海公園」



サン・アンドレス公園



大船渡地区

大船渡地区では、震災前から自主防災組織を設けていましたが、東日本大震災という未曾有の災害により、多くの地区住民が被災してしまったこと、自主防災組織の主要メンバーが公職や民間組織の要職者だったため、駆け付けられなかったことなどにより、組織がうまく機能しないという一面が見られました。

こうしたことを踏まえ、自主防災組織を見直し、いざというときにも機能するよう新たな体制を作っています。

震災当時には、全国から集まった支援物資等の備蓄や処分、それに係る費用をどう捻出するかという課題に直面しました。さらには、備蓄品を提供する際の判断・権限や備蓄場所の分散といった、今後の地域防災体制を考える上でも重要な現実的な課題も見えてきました。

再度、東日本大震災のような津波が襲来することも想定して、そうした課題の解決に取り組んでいく必要があると考えています。



夢海公園オープニングセレモニー

東日本大震災津波による被害は、市内各地区でそれぞれ状況が違ったことから、復興に向けた取り組みも、それぞれ特徴がみられました。

地区の大部分が被災した地区から、大きな被害がなく、被災地域の支援にあたった地区、過去の教訓が生かされた地区など、震災10年を迎え、今のそれぞれの思いを各地区公民館に伺いました。



末崎地区

末崎地区では、再び津波被害が発生しても半島部にかけて孤立集落が生じないように、高台を通る地域連携道路整備事業が進められています。

平成27年度からは、細浦地区において、大学等の支援を受けながら月に一回、朝市を開催しています。

また、朝市開催地の隣には、被災跡地を活用して、地域の憩いの場となる「シーサイドパーク細浦」の整備を進め、平成31年4月にオープニングセレモニーを開催しました。広場の設計にあたっては、活用方法を想定しながら、さまざまな検討を行いました。

中央地区においては、甚大な被害を受けた大田団地跡地に民間のトマト栽培施設が立地し、地元雇用も生まれています。

泊里・基石地区では、「りあすの丘」と名付けた高台移転団地の整備と併せ、地区住民が中心となって、避難路を独自で整備したり、被災跡地を利用して「浜の停車場」の整備を行うなど、独自の取り組みを始めています。



朝市(細浦地区)



シーサイドパーク細浦



大規模トマト栽培施設



盛町灯ろう七夕まつり



オールハンス・ボランティア解散式



防災訓練への参加が促進



盛地区

盛地区では、東日本大震災後の3月18日に盛地区対策本部を設け、避難所の食事の問題や、ガレキ撤去の問題、炊き出しや物品の受け渡し、個々の家の撤去問題などに対応しました。

ガレキの撤去や災害からの復旧も難事でしたが、そうした中においても、平成23年の夏には、県外からの支援団体やボランティア団体、大学などからも支援を受けながら、盛町灯ろう七夕まつりを開催しました。

以降、毎年のようにボランティアの皆さんや大学生が駆け付け、そのつながりは現在も継続しています。

今回の被災を機に、多くの町民が防災訓練に参加するようになりました。家族でできないことは地域で、地域でできないことは地区でといった「自助・共助・公助をお互いに自覚することが大事」という気風と取り組みが育ちつつあります。

今後は、後継者を絶やさないための取り組みや活性化を議論していくことが、課題となっています。